

## 平成 26 年度第 2 回 西市民センター運営審議会 議事録

- 1 開催日時 平成 27 年 3 月 13 日（金） 14 時～16 時
- 2 開催場所 西市民センター4 階 視聴覚室
- 3 出席委員 生田，吉田（直），松川，大谷，青木，山本，山岡，  
星野，吉武，石田  
（欠席委員：吉田（祐），笹田，福島，大塚，山口 5 名）
- 4 事務局 市民センター館長外 10 名
- 5 審議事項 (1) 平成 26 年度主催事業実施報告について  
(2) 平成 27 年度主催事業実施計画について  
(3) 平成 27 年度 予算の概要について  
(4) 施設利用状況及び平成 26 年度の事業報告について

### 6 審議内容

#### 一審 議一

審議事項(1) 平成 26 年度主催事業報告について事務局が説明

〈質疑・応答〉

(委員) シニア対象講座についてだが，当初の目的はシニアの方たちの社会参加・社会活動を促す目的があったと思う。

市民企画講座と一緒にして作品作りなどを行うだけでなく，シニアの方を対象とした地域見守り活動の担い手となる人材育成などの社会性を持った講座等を行なわないと勿体ないのではないか。

また，良い市民企画講座が提案されないのは，共働で行うべき事業を市民に丸投げしているからのように感じる。もう少し行政側もアドバイスしながら，リードしていかないと地域のリーダーが育たない。

市民が企画したり，主催したりできる事業はこれしかないので，大事にしてもらいたい。

(委員) シニアの方が知りたいのは，これからの生きる道，終活とか税金とか財産・遺産など。この先，関わっていくところの身近な勉強の方が良いのではないかと思う。

(委員) 11 月の人権尊重街頭啓発チラシを姪浜駅で行った際に，事前に許可を取っていたのに，構内での配布は止めるように言われたが，来年度は考えないといけないのではないか。

(事務局) 交通局は駅構内でのチラシ配りは認めない。来年度は学研都市駅周辺を考えている。

審議事項(2) 平成 27 年度主催事業実施計画について事務局が説明

〈質疑応答〉

(委員) 若者自立支援事業の中で障がい児を持つ親のための講座はないのか。特に社会に出るときが不安だと思う。親が亡くなった後の子どもの生かし方を学ぶ勉強会・学習会などの講座があればと思う。

(事務局) 現在の仕組み、生涯学習の立場から何かできるのか、できないのか整理・検討する必要がある。

(委員) 国際化対応事業について九州大学が移転して「さいとぴあ」の方面に外国人が増えていると思われるが、対応は考えているのか。

(事務局) 現在九州大学内、糸島市にも日本語教室があり、「さいとぴあ」でのニーズがどれだけあるのか、先生を確保できるのか、今のところデータが無い。ニーズがあるようであれば第 2 教室も考える必要があると思う。

審議事項(3) 平成 27 年度 予算の概要について事務局が説明

〈質疑応答〉

(委員) 生涯学習の推進に関する事業について 3 事業が 2 事業になっている。予算が縮小されているためか。

(事務局) 大きな括りで記載している。今までに近い形で内容を充実したものにして企画する予定である。予算の関係で事業数を削減したものではない。

(委員) 人権尊重に関する事業についてだが、趣旨・内容が昨年と変わり映えしない。反省や来年に向けた取り組みがあまり掲げられていない。

アンケートの結果（数字）についてはサンプルが少ないので、公式の資料としては意味が乏しい。

(事務局) 研修会のアンケートについては反省材料として活用している。参加していただく市民に対して何を狙いとして研修のテーマや内容にするのか、事務局として企画の練り方が不足していたのではないかと考えている。

その点を踏まえまして研修のあり方として、何が狙いなのか、何を聞いてほしいのか、伝えたいのか、そこまで考えた形での研修企画をやらなければならないと反省している。

(委員) 予算の問題もあるでしょうが、今年度の蓮池さんのように一般の人たちが関心のある人を呼べばホールの方員以上の人が足

を運んでもらえる。一般の人は私たちがどんなに良いものを考えても関心の無いものには足を運んではくれない。

色々条件的なものがあるとは思いますが、そのところを考える必要があるのではないか。

(委員) 私たちも出された報告をただ評価するだけでなく、27年度は仕方がないが、その次の年に向けて一緒に事業を考えていかなければいけない。

審議事項(4) 施設利用状況及び平成26年度の事業報告について事務局が説明

(委員) 各部屋の利用率又は稼働率は出していないのか。

(事務局) 審議会資料として提出はしていないが、利用率は出している。

(委員) ここに示されているのは件数と人数で、部屋ごとの利用区分、朝・昼・晩の利用率がないと分析ができない。それらを示してほしい。実際はどんな状況なのか。

(事務局) ホールについては土日祝はいっぱい音楽室や第3会議室など小さな部屋の方が稼働率が高く、第1会議室や視聴覚室など大きな部屋はまだ余裕がある状況。

(委員) 公共機関の利用人数が26年度に増えている理由は。

(指定管理者) 環境関係団体の利用や学校関係の利用が増えている。例えば、市立高等学校関係の文化祭などの利用が増えているのが原因と考えられる。

(委員) 極端に利用人数が増えたときはその理由などのデータが準備してあると良い。

(委員) 事業計画書No1で、消防訓練を年2回実施となっているが、実際に利用者が参加した状態で行っているのか。

(指定管理者) 年1回は利用者がいる想定で避難経路等の確認を行っている。

(委員) ホールが利用されている状況でも避難体制は整っているのか。

(指定管理者) ホール利用があるときは人員体制を増やして、十分安全に避難できるようにしている。

以上